

平成 29 年 1 月 11 日

国見町「小坂宿まるごと博物館」報告会・現地見学会について

福島大学行政政策学類「博物館実習（古文書選択）」では、平成 27 年度の貝田地区に引き続き、平成 28 年度は羽州街道の宿場町として知られる小坂地区を対象に、郷土史の豊かな成果に学びながら、地域の歴史・文化の再発見を進める活動を続けてきました。その成果を「小坂宿まるごと博物館」と題して報告し、併せて現地見学会を開催します。

日時： 平成 29 年 1 月 29 日（日） 10:00～15:00（予定）

場所： 小坂くらし館（旧国見町立小坂小学校） 国見町小坂字台 13 番地 1

日程： 9:30 受付開始
10:00 開会の挨拶（国見町教育委員会）
趣旨説明（福島大学行政政策学類 阿部浩一）
10:10 成果報告会（1 班 25 分、順不同）
「中世の小屋館と伊達成宗」（仮）
「小坂宿と羽州街道」（仮）
「小坂地区の寺社と信仰」（仮）
「小坂地区に伝わる歴史資料」（仮）
12:00～13:00 休憩
13:00 現地見学会
小坂くらし館に集合、約 2 時間を予定
15:00 小坂くらし館にて解散

（お問い合わせ先）

行政政策学類教授 阿部 浩一

電話：024-548-8318

メールアドレス：abe@ads.fukushima-u.ac.jp

貝田地区の寺社と信仰

貝田地区には、2つの神社と1つのお寺があり、信仰の中心となっています。それらの他に、個人の家に各家で異なった神様を祭っている氏神様の祠があったり、過去に信仰されていた庚申講の名残りで庚申塔が様々な場所に遺されているなど、神様や仏様にお参りしたり感謝したりすることが生活の一部に溶け込んでいることを感じることができます。

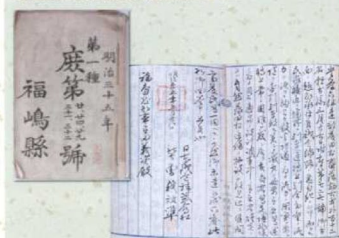
また、貝田地区ならではの「宿制」や「神社会」といった制度を中心に、現在まで祭礼が守り続けられています。地区の人々は祭礼をそのままの形式ではなく、時代に合ったかたちに変えながら、現代まで守り続けてきました。そのため現在では、祭礼は神様に感謝だけでなく、地域住民どうしの交流の場や子供たちの体験の場にもなっています。

このように、貝田地区の信仰や祭礼は目に見えるものの魅力だけでなく、人々の繋がりのような目に見えないものの魅力もたくさんあるのです。



貝田地区と鉄道火災

貝田地区は福島県の最北端にあり、宮城県に面した地区です。江戸時代には宿場町として栄えていました。貝田に鉄道が敷かれたのは明治20年(1887)で、鉄道開設で生活がより便利になった一方で、沿線の火事という弊害ももたらしました。その弊害を解消しようとする貝田地区の住民のたたらかけによって線路移転が実現しました。遺された史料からは、住民と国・県とのやり取り、また当時の詳細な状況が伺えます。



(写真1)
明治35年
「日本鉄道株式会社に関する請願の件」
伊田村と大木戸村の貝田に住む12人により鉄道移転の請願が行われました。伊田郡長の調停で人と福島県知事の有田義典を通じて、日本鉄道会社社長の菅原祐事から住人へ十分な保障がなれること、鉄道移転に前向きであるという報告がなされました。鉄道移転への大きな進展が見られる手紙です。

(写真2)
火事の様子を伝える新聞記事
(明治41年4月22日 福島民報)

貝田地区は幾度となく火事の被害を被っており、その様子はたびたび新聞に取り上げられています。汽車からの飛び火といふ小さなきっかけが、地区の半分以上を焼くほどの大きな火災につながりました。火事のたびに家を建て直し、その過程で防火のための屋敷林や石蔵が建てられるなど、貝田地区は火事に強い町並みへと変化していきました。



貝田宿まるっと見学ツアー

「江戸時代に宿場町として栄えていた頃の面影や、明治時代に養蚕業が栄えた頃の建築物、現在とは異なる場所を通っていた鉄道の名残りを今もなおとめていく国見町の貝田地区—この歴史的景観が多く残されている貝田地区全体を博物館にみえて、歴史的な魅力と価値を多くの人に伝えていこう」というコンセプトのもとに、2016年1月24日に「貝田宿まるごと博物館」「貝田宿まるっと見学ツアー」を企画しました。

午前の部は博物館の展示解説として、学生の視点から貝田地区の歴史と魅力を発掘しようということで、「信仰と祭礼」「養蚕と国見石」「鉄道」の3グループによるプレゼンテーションを公民館で開催しました。貝田地区に実際に住んでいる方々でも知らなかったことがたくさん出てきただけでなく、学生の発表を聞いた多くの来場者の方々に様々な質問を投げかけていただき、調査では発見できなかったようなことも教えていただくことができました。学生にとっても実りの時間となりました。

午後の部は博物館の展示見学ということで、プレゼンテーションで取り上げたポイントを実際に歩いて見て回る見学ツアーを行いました。見学コースは以下の通りです。

「秋葉神社裏の東北本線の線路」→「氏神様」→「旧レンガ橋」→
「旧御番所」→「最禪寺」→「水雲神社」→「防火林」→「国見石の石蔵」→
「養蚕住宅(旧佐野屋さん)」→「秋葉神社」

学生のガイドで現地を見ていただくことで、プレゼンテーションだけでは伝わらない部分まで紹介できるのはもちろん、宿場町であった頃の面影や近代の景観の名残りを参加者の皆さんに感じていただけたのではないかと思います。

このリーフレットをお手に取ってくださった方々にも、ご自分の目と足でぜひ貝田宿の歴史の魅力を感じとっていただければ幸いです。



国見町

福島大学生の案内する

貝田地区散策MAP



最 禪 寺

旧貝田宿の番所近くに位置する曹洞宗の寺院です。貝田地区の檀家寺で、毎年2月にある「涅槃会」では、大正時代に貝田地区の住民が描いた見事な「涅槃図」が披露されます。また、西の間には「子育て観音」が安置されており、子供を授かることや子供の健やかな成長が願われていて、伊達秋父三十四観音の31番札所として知られています。



秋葉神社と水雲(すいうん)神社

貝田地区には2つの神社が存在し、毎年春には「秋葉神社」、秋には「水雲(すいうん)神社」で祭礼が行われています。祭礼は貝田地区の住民が「宿制」と「神社会」という制度をとって神社の祭礼を守ってきました。現在のお祭りには、町内会の方が出店を出し、例年貝田地区の多くの方が訪れています。



庚 申 塔

貝田地区では昔、庚申講が信仰されていたため、24個の庚申塔が現在でも残されています。庚申講では病氣平癒や養蚕での成功が願われていたことから、養蚕がさかんに行われていた貝田地区の当時の様子をうかがうことができるのではないのでしょうか。ひとつひとつ大ききや形が異なっているため、是非全部探してみてください。



国 見 石

国見石は江戸時代末期に採掘が開始され、町内の12か所で採石されました。当初は採石される場所の大字名を使い、小坂石、山崎石、石母田石などの名前と呼ばれていたようです。初期は主に建物の土台やかまど等に使用されましたが、大正期に入り、大戦景気や福島・伊達地方の養蚕業の隆盛もあって、豪商や豪農の米の備蓄のために石蔵が建設されるようになりました。昭和40年代後半になると国見石の採石は終了しましたが、石蔵の建築はここからピークを迎えました。国見石が採掘されなくなった理由は、採石場の危険性が増したからだといわれています。なので、現在も質のいい国見石は存在しています。(写真は国見石を使用したかまど)



福島大学生の案内する

貝田地区散策MAP



貝田地区の魅力満載



平成26年1月26日福島民友新聞掲載

ビュースポット

「秋葉神社の裏から見える線路」
秋葉神社の裏は東北本線と隣接していて、神社から藤田方面を見ると下り坂になっており、山際に沿って急カーブになっていることが分かります。藤田から貝田へ向かう列車は坂を上るのにたくさんの石炭を使用したため、旧線路時の貝田は火事が起きやすい場所でした。現在の場所へ線路を移設する際には、鉄道火災を防ぐために線路を掘り下げて作る工夫を施しました。線路の両脇を削り、そこが斜面になっている様子も神社の裏から確認することができます。現在では鉄道愛好家の間で人気のあるスポットです。



国見石の石蔵

写真は、昭和6年(1931)に建造された松田家の石蔵です。火力に非常に強く、加工が容易である国見石が使用されています。鉄の扉や窓は耐火性・防犯性に優れており、壁面は石を切り出す際に入る手彫りによる模様であるツルメ仕上げ、屋根は寄棟屋根という特徴があります。



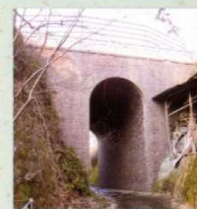
養蚕住宅

佐藤家住宅は「佐野屋」の屋号を持ち、江戸時代には旅館を営んでいたと伝わっています。現存している養蚕住宅は、大正15年(1926)に建築されました。総二階建て構造で、換気機能のために屋根の棟に備わった気抜きや明かり取りの窓、熱循環の効率化を図るための低い天井など、養蚕業に適した造りになっています。現在では養蚕業は行われていませんが、趣ある建造物は産業の歴史や時代の変化を今に伝えています。



レンガ橋

旧鉄道跡上にあるレンガ橋は、明治20年(1887)に建設されました。貝田の鉄道の歴史を象徴する史跡です。レンガ橋の上には「貝田旧国鉄軌道敷跡町道整備記念碑文」があり、下から眺めると、レンガ積みアーチの全体を見ることができます。現在の旧鉄道は道路として使用されているため、レンガ橋の上部はコンクリートで舗装されていますが、残りは当時のままのレンガがきれいに残っています。



羽州街道

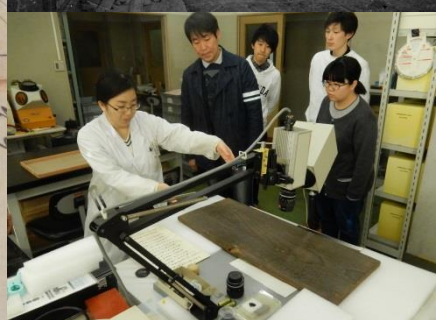
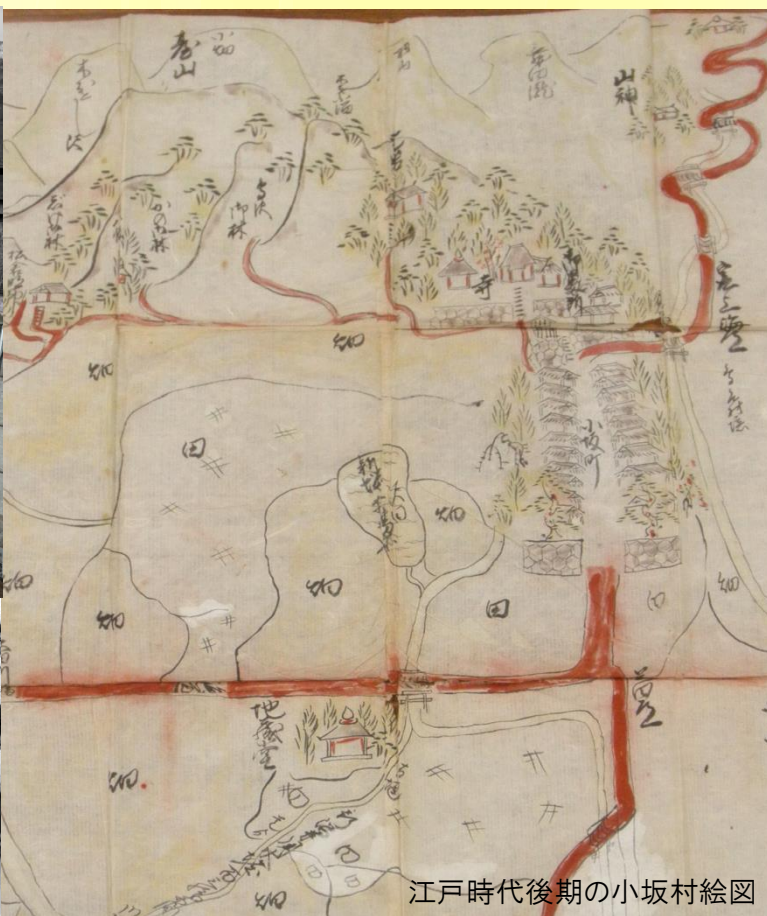
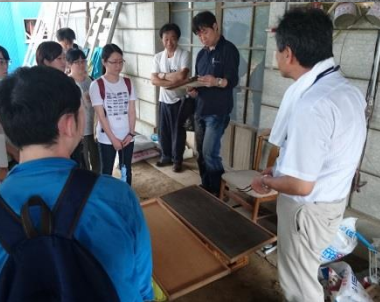
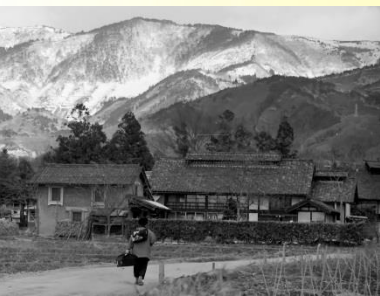
『小坂宿まるごと博物館』

平成29年 1月 29日 (日)

会場 小坂くらし館 ※旧小坂小学校

(福島県伊達郡国見町小坂字台13番地1)

小坂は、江戸時代の羽州街道宿場町。
宿場町の面影を残し、江戸時代の絵図を片手に現在も歩くことができます。1年間大学生がフィールドワークを重ね、江戸時代の小坂宿の様子や、室町時代に小坂に隠居していた伊達成宗(しげむね)の歴史、変わりながらも受け継がれてきた人々の営みについて学びました。大学生と一緒に小坂について考えてみませんか？



10:00 小坂宿まるごと博物館報告会 (9:30開場)

福島大学行政政策学類博物館実習受講生による成果発表。

- テーマ1「小坂の寺社と信仰について」
 - テーマ2「伊達成宗と小屋館について」
 - テーマ3「旧羽州街道と小坂宿について」
 - テーマ4「小坂宿に残る古文書について」
- (12:00～13:00 昼食休憩)

13:00 小坂宿まるっと見学ツアー (受付・出発)

福島大学生が小坂宿をご案内します。15:00終了予定。

申し込み不要・参加費無料

国見町教育委員会生涯学習課

☎024-585-2676

※会場に近接する飲食店等はないため、昼食等の準備は各自でお願いいたします。
※駐車場の台数は限りがありますので、乗り合わせまたは公共交通機関等をご利用ください。(福島交通路線バス小坂行き「小坂小学校」停留所から徒歩1分)

■主催 福島大学行政政策学類阿部浩一研究室・国見町教育委員会

■後援 国見町郷土史研究会、ふくしま歴史資料保存ネットワーク、福島民報社、福島民友新聞社、小坂地区町内会